

## 消防団長紹介



### 箕面市消防団 団長 西川 正彦

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、市域の約3分の2が山地によって占められています。市の北部には、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

特に「箕面大滝」に代表される国定公園内では、新緑の季節から初夏にかけて涼を求め、紅葉の季節には真っ赤に染まる山に焦がれ観光客やハイカーが数多く訪れる府内有数の観光都市となっています。その一方で、箕面森町（水と緑の健康都市）や彩都（国際文化公園都市）など新しいまちの整備や、新名神高速道路の開通、2023年度を目標とした市中央部での鉄道延伸など、恵まれた自然環境の中で、さらに住みよいまちづくりへの取組みを進めています。

箕面市消防団は、令和元年4月1日現在、4方面隊23分団、団員584人と学生消防隊員25人が市民の安全・安心を守るために活動しています。

車両については、総務省消防庁から貸与していただいたポンプ車を始め、指揮広報車1台、積載車1台、ポンプ車23台を所有し、消火活動だけでなく、大規模災害時の救助・援護・避難支援活動といった地域防災活動におけるリーダー的役割を位置づけ、日頃から各地域の防災委員会や消防本部と連携し地域防災力の強化を図っています。

その消防団を指揮される西川団長は、消防団員拝命以来、17年の永きにわたり、常に消防団員としての使命を自覚され、地域住民の生命財産を災害から守るため、過去幾多の災害現場に出場、被害の軽減に尽力されています。訓練出場にも積極的に参加され、自らの技術練磨に努めておられます。

また、平成27年4月に団長を拝命されてからは、長年の消防団活動における豊富な知識・経験で団長として本市消防団員約600名をまとめる重責を全うされ、消防行政推進の要として活躍されています。

常に沈着冷静で温厚な人柄で「地域の安心・安全を守りたい」という強い意志をもっておられます。

西川団長が消防団活動において特に記憶に残っている出来事は、平成26年の大雨による水防活動とのことです。

平成26年8月は異常気象により大気の状態が不安定になり、過去に例を見ない猛烈な大雨による洪水や土砂災害により各地で甚大な被害が発生しましたが、本市でも8月24日夕刻から大雨が降り出し、本市消防団は23分団すべてが各詰所に参集、前が見

ないくらいの大雨が降りしきる中、各地域の巡回や危険排除の対応を行いました。特に山際にあるマンション内に泥水が大量に流れ込んだ事案では、土のう作成や積み上げなどを行い懸命な水防活動を長時間にわたり行いました。

団長はこの出来事から、消防団は「自らの地域は自らで守る」という崇高な郷土愛護の精神に基づき活動を担っているが、日頃から行っている訓練がいかに大切であるかを身を持って感じたとのことです。

近年、自然災害は各地で発生し、多くの人命と財産が失われています。そのような中、昨年6月18日には大阪府北部を震源とした地震が発生しました。本市でも最大震度6弱を観測し、市内で負傷者が発生するとともに、各所で停電や断水などの被害に見舞われ、消防団も管内の巡回や給水活動の支援等に出務しました。

昨年の地震を受け、今後30年以内に80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震において、阪神・淡路大震災をも上回る甚大な被害が想定されており、市民の防災に対する意識はますます高まっています。

これらのことから、今後、学生消防隊を含め、我々消防団が果たす役割は、極めて大きいものがあり、地域住民から大きな期待が寄せられていると感じています。その期待に応えるため、常備消防や地域の防災組織などと連携を図り、一丸となって活動に取り組んでいきます。